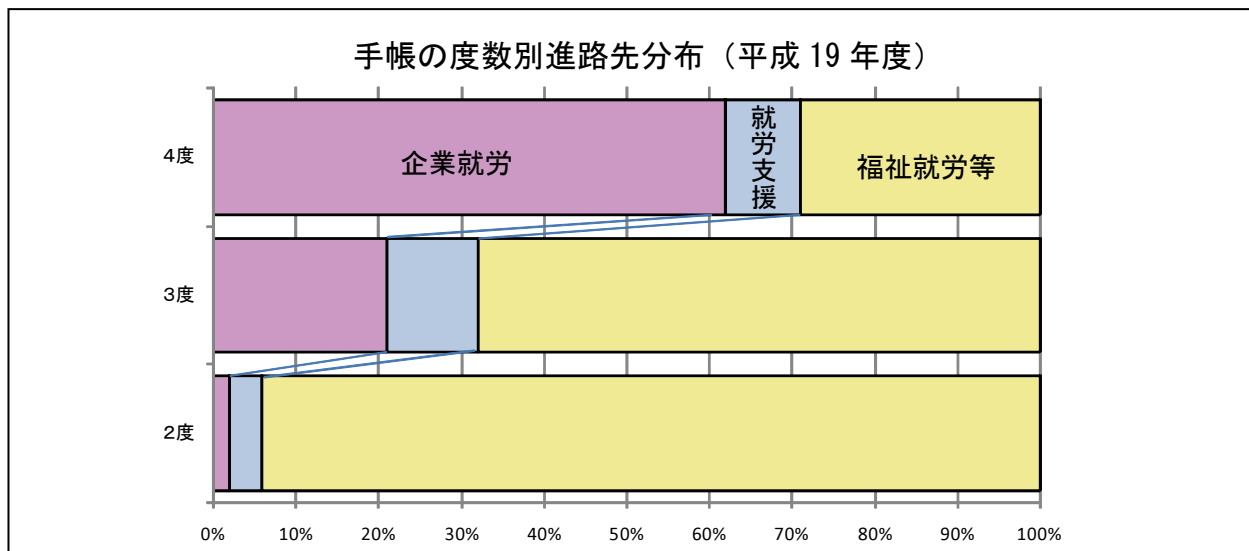


第3章 高等部におけるキャリア教育

1 企業就労に求められる力

(1) 愛の手帳の度数別進路状況

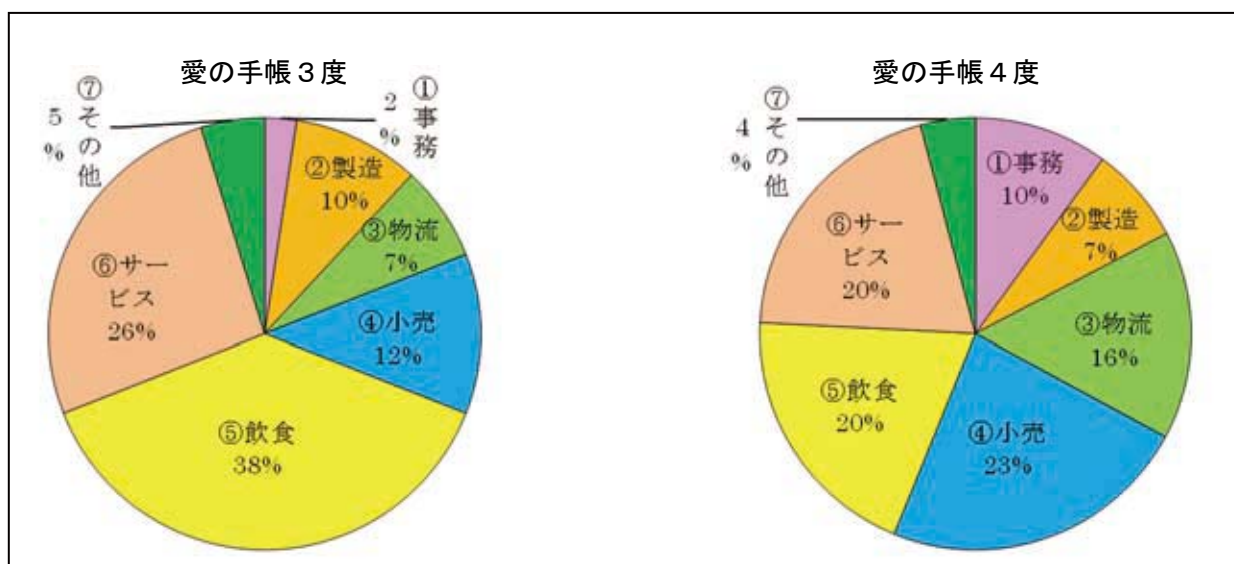


○4度の生徒は、62%(242名)が企業就労しています。3度の生徒では、21%(49名)にとどまっています。2度の生徒では、1名が企業就労しています。

○4度、3度とも約1割の生徒が、就労支援を行う進路先*1に決定し、企業就労目指して支援を受けています。2度の生徒では、2%にあたる5名が就労支援を受けています。

*1：就労支援を行う進路先として主なものは、・就労移行支援事業所、就労継続支援事業所A型、職業訓練校、各区市町村就労支援機関訓練所など

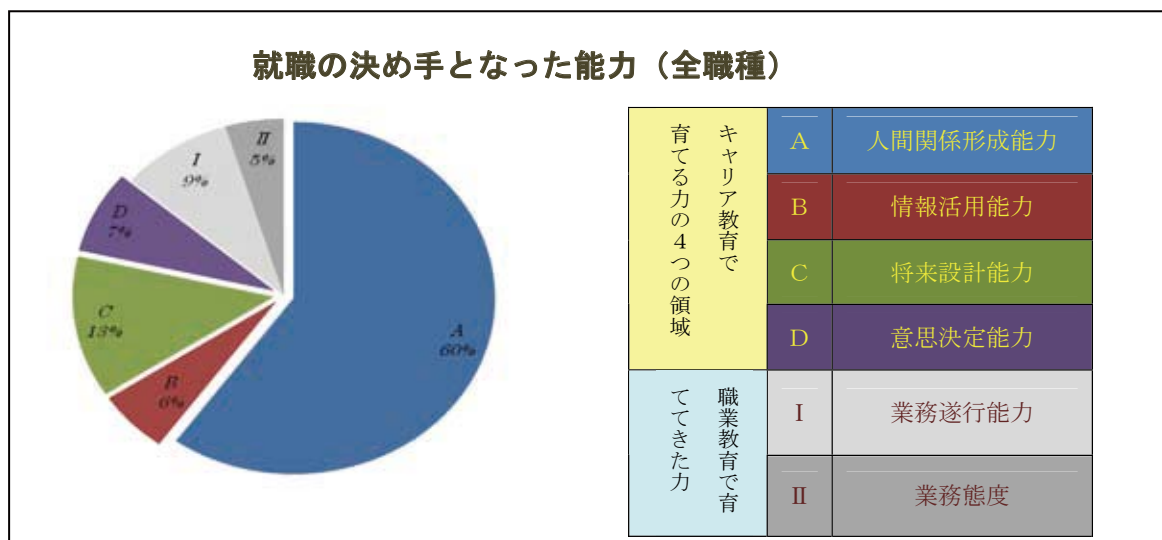
3度の生徒が企業就労した職種を見ると、飲食とサービスが全体の6割を超えており、重・中度の生徒が今後就労しやすい職種と言えます。2度の生徒については、平成18年度には、6名の生徒が企業就労しています。19年度は1名の生徒が企業就労し、5名の生徒が就労支援を目指しています。今後も、2度・3度の卒業生の企業就労率の向上が求められます。



(2) 高等部におけるキャリア教育と職業教育との関連

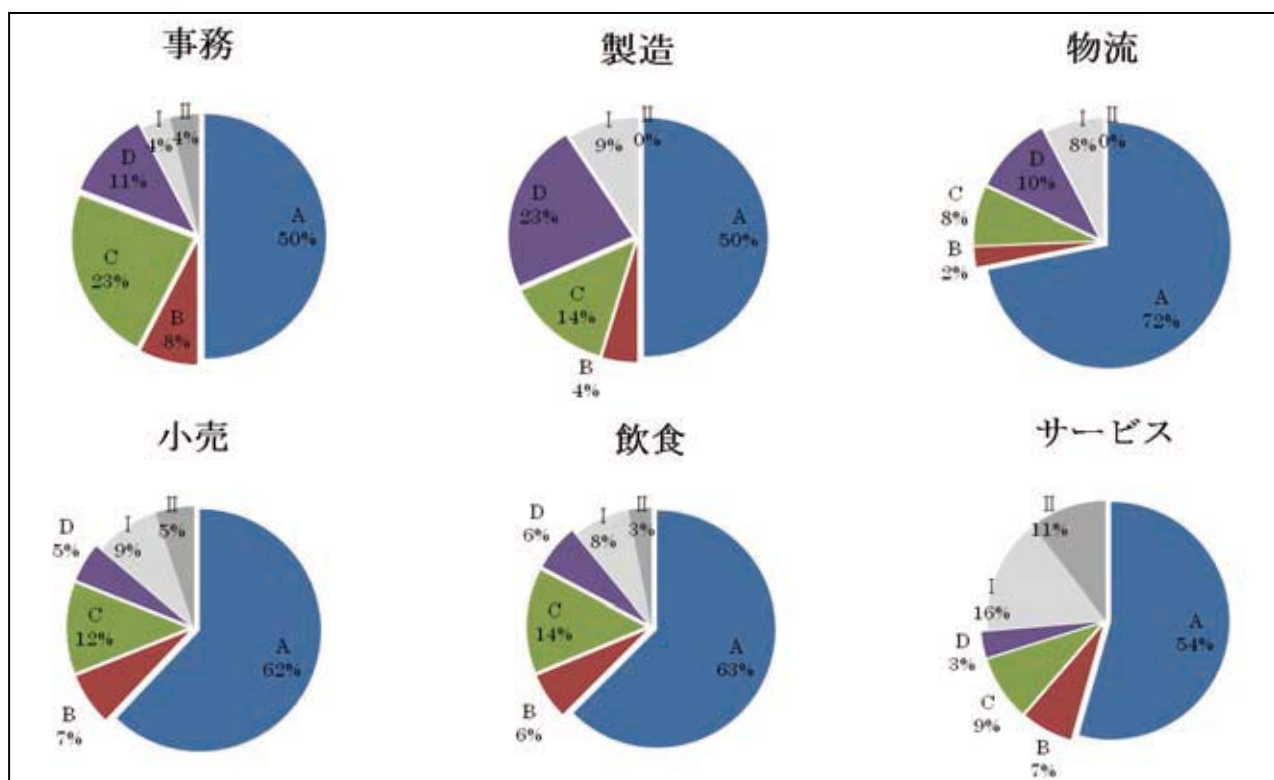
就職の決め手となった能力は？

平成19年度東京都知的障害特別支援学校高等部卒業生のうち、企業就労した生徒について、キャリア教育で育てる力及び高等部の従来の職業教育の中でねらいとして育ててきた「Ⅰ業務遂行能力」、「Ⅱ業務態度」の6つの能力のうち、どの能力が就職の決め手となったのか、各校の進路指導担当者に上位3つを尋ねるアンケートを実施し、結果を次のようにまとめました。



企業就労の決め手となったのは、キャリア教育で育てる力の4領域が、全体の86%と高い割合になっています。特にその中でもA：人間関係形成能力は60%で、下の職種ごとのグラフを見ても、すべての職種で群を抜いているのは一目瞭然です。人間関係形成能力は、小学部、中学部、高等部を通じてすべての場面で課題として取り組まれるもので、就労のみならず、社会生活全般に求められる力であると言えます。

職種ごとに見てみると。。。 （就職の決め手となった能力）



これまで職業教育で目指していた「業務遂行能力」「業務態度」は、4つのキャリア教育の能力に支えられて育成されています。高等部段階においては、小学部、中学部を通して培われたキャリア教育の4領域の力を将来の自立と社会参加を推進するために充実、発展させていくことが大切です。



(3) 離職理由と今後の支援

<調査1>

過去3年間の都立知的障害特別支援学校卒業生の「離職した理由」の割合は、以下のとおりです。

順位	離職した理由	割合
1	職場の人間関係	30.9%
2	家庭の支援不足、家庭の事情等	17.3%
3	仕事内容とのマッチング	10.9%

<調査2>

各校進路指導担当教員が考える「今後、離職した生徒が職場に定着していくのに必要なことは？」の割合は、以下のとおりです。

順位	職場定着に必要なこと	割合
1	職場での良好な人間関係	23.5%
2	就労支援機関、福祉事務所の支援	19.9%
3	家庭の支援	18.1%

このアンケート結果で最も注目すべき点は、卒業後の職場定着には、**人間関係形成能力**が重要な役割を果たしているということです。このため、高等部卒業後の就労を見据え、小学部段階から一貫して**人間関係形成能力**を高めていく指導が必要であると言えます。

さらに、離職した生徒への職場定着のための支援として、進路担当者の多くが「就労支援機関、福祉事務所の支援」を挙げています。キャリア教育の視点から、在学中から卒業後の生活や進路を見据え、支援機関に関する**情報活用能力**やこれらの機関を積極的に利用するための**将来設計能力**、**意思決定能力**の育成も重要です。



2 キャリア教育の実践

(1) 教科「職業」における4つの領域との関連

現在、各校の高等部で行われている教科「職業」の主な学習内容を單元ごとに学年進行にしたがって整理するとともに、各単元の学習内容とキャリア教育との関連性を下図のように示しました。

単元名	学習内容	4つの領域			
		人間関係形成能力	情報活用能力	将来設計能力	意思決定能力
公共交通機関を使う (1年)	周辺の交通網、公共交通機関の利用法、公共交通機関を利用するときのマナーを学ぶ。	◎	○		
公共交通機関を使う (2年)	公共交通機関を一人で利用するための情報収集、公共交通機関の遅延・事故等の対応を学ぶ。	○	◎		
公共交通機関を使う (3年)	余暇にも公共交通機関を一人で利用するために、情報収集する。		◎	○	

- | | | |
|----|---------------------------|-----------|
| 1年 | 一般的な交通機関の利用法、外出時のマナー、職場見学 | *人間関係形成能力 |
| 2年 | 一人で交通機関を利用、企業での現場実習の通勤 | *情報活用能力 |
| 3年 | 余暇利用、多様な交通手段 | *情報活用能力 |

生活のリズムと健康 (1年)	帰宅後や休日の時間の過ごし方や、睡眠時間を発表し、睡眠と健康、食事と健康などについて学ぶ。	○		◎	
生活のリズムと健康 (2年)	産業現場等における実習を意識して、帰宅後や休日の時間の過ごし方や睡眠と健康、食事と健康などについて学ぶ。		○	◎	
時間の活用 (3年)	自立生活する際の帰宅後や休日の時間の過ごし方などを、週、月などを想定して学ぶ。		○	◎	

- | | | |
|-----|---|--------------|
| 全学年 | セルフ＝コントロールに関すること | *将来設計能力 |
| 1年 | 豊かな学校生活、生活のリズム、自己の生活についての理解 | *人間関係形成能力 |
| 2年 | 産業現場等における実習、フルタイム働くこと意識、時間の過ごし方、休養、生活のリズム | |
| 3年 | 自立生活、家事も含めた時間の有効活用 | 2年・3年*情報活用能力 |

身だしなみ (1年)	季節や天候、行き先や目的に合わせた服装を理解する。	◎	○		
身だしなみ (2年)	通勤にふさわしい服装、職種に応じた服装や髪型、あらたまった場での服装などを学ぶ。	◎	○		
身だしなみ (3年)	日常のみならず冠婚葬祭を含め、場所や目的に応じた服装を理解する。	◎	○		
身だしなみ (3年)	場所や目的に応じた、整髪、化粧などについて理解する。	○	◎		

- | | | |
|-----|--|-----------|
| 全学年 | 自他の理解が基本 | *人間関係形成能力 |
| 1年 | 社会見学や職場見学、目的に合わせた服装 | |
| 2年 | 産業現場等における実習の通勤、職種に応じた服装、実習壮行会等あらたまった場の服装 | |
| 3年 | 入社式、成人式、結婚式、葬式などの冠婚葬祭や、旅行など非日常の場 | |
| 3年 | 社会人としてふさわしい整髪、化粧も含めた整容 | *情報活用能力 |

基本的なコミュニケーションスキル（1年）	あいさつ、返事、報告や会話中のうなずきや相づちなどの基本的なコミュニケーションスキルを学ぶ。	◎	○		
自己紹介、面接（1年）	自己紹介で話すこと、面接でよく聞かれること、言葉づかい、話を聞く姿勢などについて学ぶ。	◎	○		
自己紹介、面接（2年）	自己紹介で話すこと、面接でよく聞かれること、言葉づかい、話を聞く姿勢などについて学ぶ。	◎		○	
履歴書の書き方、面接（3年）	履歴書の書き方を知り記入する。好ましい挨拶・返事や面接中の態度を身に付ける。	◎	○	○	

全学年 社会人として求められるコミュニケーションスキル

*人間関係形成能力

1年 新たなスキル

*情報活用能力

2年 面接、産業現場等における実習、就労にむけた意識・意欲を問われる

*将来設計能力

3年 履歴書、面接にともなって必要となる文書

*情報活用能力

職場でのマナー（1年）	学校と働く場との違いについて学ぶ。	○	◎		
職場でのマナー（2年）	学校と働く場との違いについて、産業現場等における実習を想定して学ぶ。	◎	○		
職場でのマナー（3年）	友だち、職場の同僚、支援者、上司等、相手の立場や役割を理解し、話す内容や言葉づかいについて理解する。	○		◎	

1年 職場見学、1日就業体験等、仕事、働く場

*情報活用能力

2年 産業現場等における実習や職場での役割、職務遂行のためのマナー

*人間関係形成能力

3年 様々な立場の人とのコミュニケーション、社会生活で果たすべき役割の理解

*将来設計能力

就業体験等事前学習（1年）	就業体験等の目標を設定し、実習先、日誌の記入方法、交通経路、持ちもの・服装等を確認する。		◎		○
産業現場等における実習事前学習（2年）	産業現場等における実習の目標を設定し、実習先、日誌の記入方法、交通経路、持ちもの・服装等を確認する。		○		◎
産業現場等における実習事前学習（3年）	就労を意識して産業現場等における実習の目標を設定し、実習先、日誌の記入方法、交通経路、持ちもの・服装等を確認する。	○			◎

1年 産業現場等における実習などの準備、初めての体験、必要な情報を得る

*情報活用能力

2年 目標設定にウェイト

*意思決定能力

3年 2年の現場実習で深めた自己理解をもとに就労に向けた目標設定

*人間関係形成能力

就業体験等「事後学習」（1年）	就業体験等の評価、感想などをもとに成果を確認し、今後の課題を明らかにするとともに、2年生の実習の方向性を考える。		◎		○
産業現場等における実習事後学習（2年）	産業現場等における実習の評価、感想などをもとに成果を確認し、自己の職業適性を把握する。	◎			○
産業現場等における実習事後学習（3年）	産業現場等における実習の評価、感想などをもとに、卒業後の進路を選択する。			○	◎

全学年

*意思決定能力

1年 未知の働く場、未知の経験

*情報活用能力

2年 自己の適性を把握、自己理解

*人間関係形成能力

肯定的な自己評価、次の産業現場等における実習へのモチベーション

*意思決定能力

3年 産業現場等における実習の評価で進路選択

*意思決定能力、将来設計能力

インターンシップ (1年、2年)	実際の職場で働く体験をとおして、働く意味を理解する。		◎	○	
産業現場等における 実習(2年)	一定の期間続けて仕事を体験することで、働くときに必要なことを知り、また自分の職業適性を考える機会とする。	◎	○	○	○
産業現場等における 実習(3年)	就労を希望する企業で仕事を体験し、自分と職場とのマッチングを考えるとともに、就職後に必要なことを知る。	○	○	◎	◎

- | | | |
|----|--|--------------------|
| 1年 | 就業体験等、働く意味や意義、労働や企業について理解
自分の進路に目を向ける | *情報活用能力
*将来設計能力 |
| 2年 | 職場での自分や人間関係、役割理解と役割遂行、必要な相談と報告 | *人間関係形成能力 |
| 3年 | 進路選択の機会、選択する力、卒業後の生活 | *将来設計能力、意思決定能力 |

(2) 教科「職業」における4つの領域の構成

教科「職業」で扱う主な内容は、就労に向けた指導内容と自立した社会生活に必要な指導内容等になります。どちらの内容も、今までの学校生活の経験からは知りえない未知のことが多く、情報収集能力が重要になります。そのため、全学年を通じて情報活用能力の育成が必要となります。(1)の教科「職業」とキャリア教育との関連性を示した図からも、情報活用能力は実際に多くの学習内容で力点が置かれています。

人間関係形成能力にかかわる学習は、1年生・2年生の学習内容の中で多く扱われています。2年生・3年生で産業等現場等における実習を行なうためには、基本的な力として人間関係形成能力は欠くことができないからです。また、2年生・3年生での学習内容は、実際に生徒たちは、進路を選択し将来設計することを求められますから、将来設計能力や意思決定能力にかかわるものが増えていきます。これらを図示すると下図のようになります。

教科「職業」における4つの領域の構成

1年	情報活用能力	人間関係形成能力	将来設計能力	意思決定能力
2年				
3年				

第4章 キャリア教育の推進

1 組織的、系統的なキャリア教育の推進

知的障害特別支援学校では、高等部を中心に教科「職業」や作業学習、総合的な学習の時間等において、勤労観・職業観の育成にかかわる指導を実践しています。キャリア教育の考え方は知的障害特別支援学校で行ってきた職業教育や進路指導を全て含んだ包括的で大きな概念です。その用語の定義や系統性が難しい等の理由から「キャリア教育」に関する理解はあまり浸透していないのが現状です。**現在行なっている教育活動全体を、勤労観・職業観をはぐくむというキャリア教育の視点で見直し、小学部・中学部段階からキャリア教育を踏まえた教育課程を編成していく必要があります。**

そのためには、キャリア教育の方針を検討する**組織を設置し**、個別指導計画や日々の授業に関連付けて行えるようにする**組織的な取組**と、各発達段階に応じたキャリア発達能力育成のあり方や各教科・領域での指導内容を明確化していく**系統的な取組の2つを相互に関連して取り組んでいく**ことが大切です。

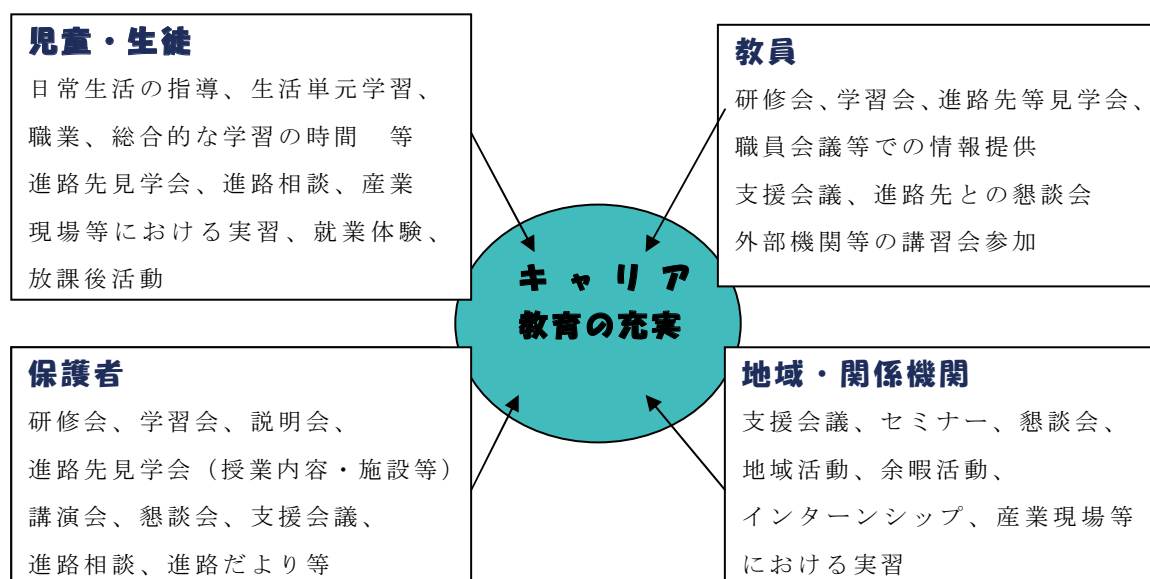
また、キャリア教育について研究・検討したことを教職員や保護者及び児童・生徒に関わる人たちと共通理解を図り、日々の授業や活動の中で実践していかなければなりません。

平成21年度以降の教育課程届において、本報告書のキャリア発達段階表に基づく小学部からの「キャリア教育の推進」を必ず明記するとともに、各教科等の年間指導計画をキャリア教育の視点から見直しを行なってください。

なお、その推進に当たっては、小学部からの系統的な就業体験、小学部の各教科等での作業的な活動、中学部・高等部の作業学習の系統的な取組が重要になります。

2 キャリア教育の理解・啓発

キャリア教育は、児童・生徒、教員、保護者、地域の関係諸機関の多方面へ理解を図るとともに、広く助言を求めるなどしてより一層の充実に努めていく必要があります。



平成20年度特別支援教育推進計画に基づく教育課程の研究・開発事業
障害のある児童・生徒の自立と社会参加を目指した指導の研究・開発事業

キャリア教育推進委員会

	所 属	職	氏 名
本 委 員 会	南大沢学園特別支援学校	校 長	◎尾崎 祐三
	武蔵台特別支援学校	校 長	鈴木 敏郎
	江東特別支援学校	校 長	栗木 健一
	町田の丘学園	校 長	市川 健一
	足立特別支援学校	校 長	奥井かおる
	田無特別支援学校	校 長	吉瀬 正則
	葛飾特別支援学校	校 長	引間 宗人
	田園調布特別支援学校	校 長	横倉 久

◎：委員長

○：世話人

	所 属	職	氏 名
小 委 員 会	南大沢学園特別支援学校	校 長	◎尾崎 祐三
	武蔵台特別支援学校	主幹教諭	東川 修一
	江東特別支援学校	主幹教諭	○磯部 淳子
	江東特別支援学校	主幹教諭	山内 達夫
	足立特別支援学校	主幹教諭	日高 浩一
	田無特別支援学校	主幹教諭	○小鷲 純子
	葛飾特別支援学校	主幹教諭	木村 吉夫
	南大沢学園特別支援学校	教 諭	中嶋 献児
	南大沢学園特別支援学校	教 諭	阿部三枝子
	南大沢学園特別支援学校	教 諭	石井 貴子
	武蔵台特別支援学校	教 諭	橋本 邦彦
	武蔵台特別支援学校	教 諭	松浦 啓子
	江東特別支援学校	教 諭	鈴木 玲子
	町田の丘学園	教 諭	山田 智博
	町田の丘学園	教 諭	○竹内 大吾
	町田の丘学園	教 諭	河野 秀男
	足立特別支援学校	教 諭	表 昇
	田無特別支援学校	教 諭	慶徳 芳江
	葛飾特別支援学校	教 諭	中川 武
	田園調布特別支援学校	教 諭	柴田 一
田園調布特別支援学校	教 諭	加藤 治	

職	氏 名	職	氏 名
指導部義務教育特別支援教育指導課長	坂本 和良	指導部義務教育特別支援教育指導課 指導主事	和田 慎也
指導部特別支援学校教育担当課長	半澤 嘉博	指導部義務教育特別支援教育指導課 指導主事	川口 真澄
指導部主任指導主事(特別支援教育担当)	太田 裕子	指導部義務教育特別支援教育指導課 指導主事	中野 達也
指導部義務教育特別支援教育指導課 統括指導主事	中西 郁	指導部義務教育特別支援教育指導課 指導主事	原田 勝
指導部義務教育特別支援教育指導課 統括指導主事	山中ともえ	指導部義務教育特別支援教育指導課 指導主事	丹野 哲也

平成20年度特別支援教育推進計画に基づく教育課程の研究・開発事業
障害のある児童・生徒の自立と社会参加を目指した指導の研究・開発事業
(キャリア教育推進委員会) 報告書

東京都教育委員会印刷登録

20年度 第260号

発 行 日 平成21年3月31日

発 行 東京都教育庁指導部義務教育特別支援教育指導課

所 在 地 〒163-8001 東京都新宿区西新宿2丁目8番1号